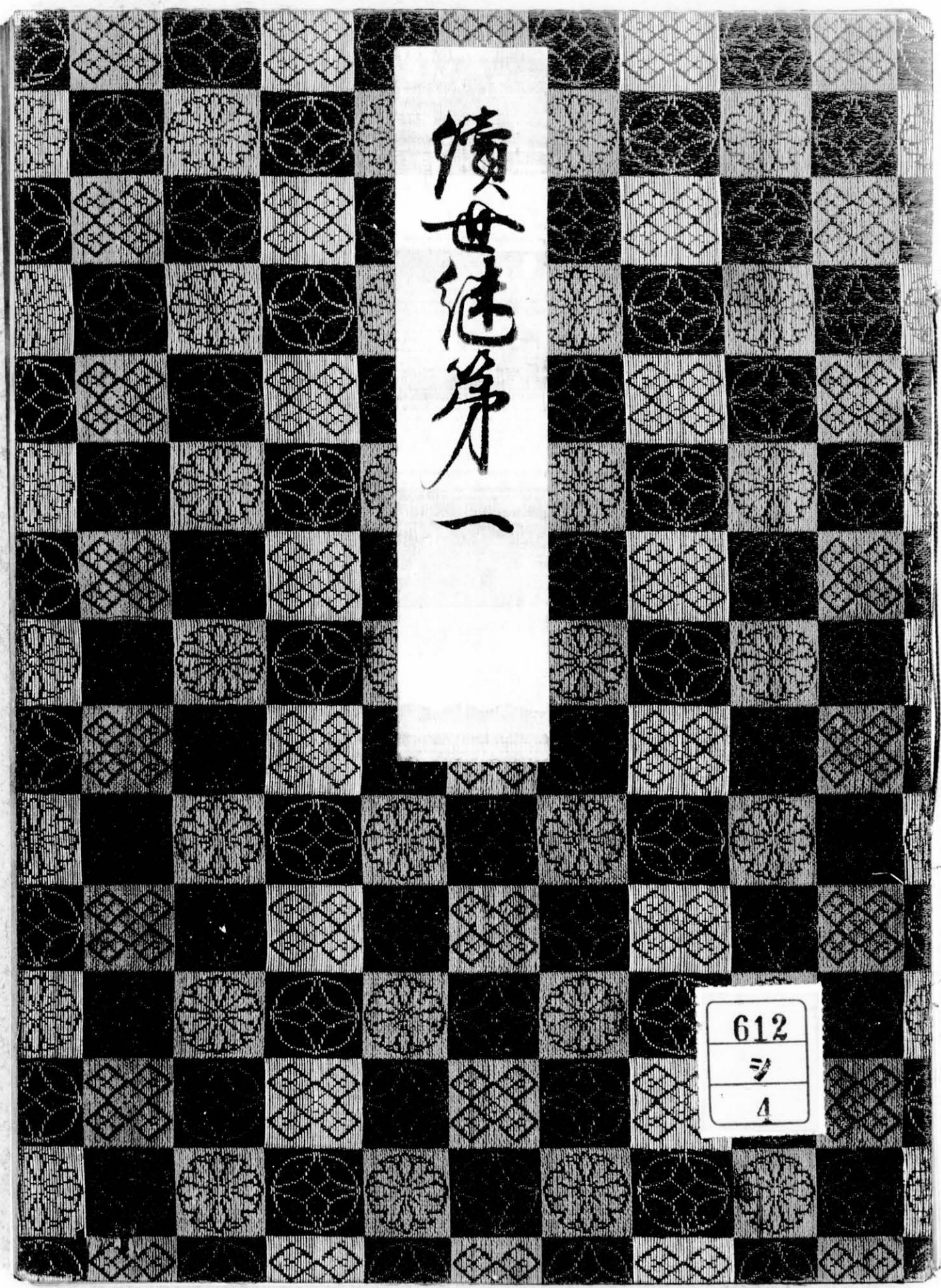


0 150 cm 10 20

SEKISUI JUSHI



續世継第一

612
シ
4

612
7
4



續世継第一

とくらゝか

一 雲井

子日

二 しのぎ

やあひ

りらこ

三 しのぎ

こゝろのみね

四 けさこ

とくらさば中才二

そのなほいぬむけ

五 みらねんり

はつせぬうへ

六 むきうさ

こころのゆき

七 白川の花の宴

鳥羽沙々

八 まのちん

屋のーり

とくらさのトオコ

九 ねとこふ

しーのね

十 あかうらわさ

旧宴

十一 ちきよのすこ

むなれ

十二 花のうらみ

十三 うさしね

ゆらうの上か

十四 くらなま

いぢれうやう

十五 うゝのきりやう

十六 まれうー

くらなま

十七 うすなま

なま

なま

くらなま

くらなまの中ま

十八 くらなま

くらなま

くらなま

十九 うらなま

くらなま

二十 うらなま

くらなま

廿一 花の山

くらなま

くらなまの花の山

くらなま
田舎

ゆらなみのまた

廿二 ふあせぬ

う人のあきひ

ふひあめい

ゆめのね

ううあ

廿四 ますものけ

廿五 うけのま

いあひのり

廿六 たらうのね

うやま

まのふき

しゝは源氏才七

廿七 うあね

うういのなるま

ゆめのひら

廿八 ああせ

あつと

廿九 しゝのゆり

ううう

いづのつく

りぬきなり

みこみちハ

と千原氏とやと

花のあふ
まぢねと
海女たね

ゆい

月のくく山端

世一
くくくひ

しーくくみ

世二
あふくくみ
さうき

いのく

くく

ゆくのみ

くくくく

くくく

世と
くくく

なみ

けくくく

[illegible]

雲井

後一条の御門といふは一条院の御二升の御
よりなり。母上は中宮の御孫なり。一
つ入道前名は長良の御孫の御一
つ。十三年の御門寛弘五年の御月
十日の御門の御日じまの御を終り
同年の十月十六日。親王の御宣旨に
えり。終り。同八年六月十二日。東宮
の御世終り。一宮の御より。一宮院
の御を終り。終り。終り。この御後を

よ。終り。一宮の御より。ゆつり。一宮を終り。
い。終り。一宮の御より。ゆつり。一宮を終り。
の。終り。一宮の御より。ゆつり。一宮を終り。
せ。終り。一宮の御より。ゆつり。一宮を終り。
九日。終り。一宮の御より。ゆつり。一宮を終り。
い。終り。一宮の御より。ゆつり。一宮を終り。
の。終り。一宮の御より。ゆつり。一宮を終り。
終り。一宮の御より。ゆつり。一宮を終り。
した。終り。一宮の御より。ゆつり。一宮を終り。
一宮。終り。一宮の御より。ゆつり。一宮を終り。

之月よりゆみひきほのねくちねとていへん
せ給ふゆつりしを給ふといふの日
てゆきほとなし世給ふまゝえ給ふ
も八月九日未交りゆきほとのせ給ひ
きと糸院より月よりくちねを給ふ
月よりねを給ひゆきほと世中ゆき
くちねりゆきほとやまひなとて
こえてくちねせ給ふまゝといふねと
の才と親とてゆきほとていふて
せ給ふたよりゆきほと未交り院号

さうえりて給ふ糸院とていふ
けうさくめりていふもゆきほと
もなとていふけいゆきほとていふ
ねのいふもゆきほとていふ
もゆきほとていふもゆきほとていふ
仁二年正月よりいふと十ふとていふ
ゆきほとていふもゆきほとていふ
ふたふとていふもゆきほとていふ
けいゆきほとていふもゆきほとていふ
もゆきほとていふもゆきほとていふ

まゝらんはげり卯月の廿八日とわかれ
ていつくつとてとせせせせとね
のうたなまのうたもくはてしなく
ありけりいふもふもふもふといふ
代のうたもなれぬいふもふとて
るーんーんーんーんーんーんーん
もいふもふもふもふもふもふも
らふもふもふもふもふもふもふ
けりあふもふもふもふもふもふ
ていつくつとてとせせせせとね

のうたもふもふもふもふもふも
ーんーんーんーんーんーんーん
はたつもふもふもふもふもふも
うたもふもふもふもふもふもふ
もあねねもふもふもふもふもふ
うたもふもふもふもふもふもふ
みゆもあつてうたもふもふもふ
うたもふもふもふもふもふもふ
のね色もあつてうたもふもふも
こゝろもあつてうたもふもふも

とうん八月廿八日申す所え服せらるゝ
いづ十一日申す所え九月廿九日
入道にす申す所え九月廿九日
同日申す所え九月廿九日
くり出らるゝ申す所え九月廿九日
はまみしうけいせに申す所え九月廿九日
さほとも申す所え九月廿九日
はのこに申す所え九月廿九日
十月より入道のたしといえよのちを
恵んす所え九月廿九日

治安二年よりいふ七月廿九日は成寺
のちのせらるゝ入道にす金堂供養せ
らるゝいふ申す所え九月廿九日
くれけいせに申す所え九月廿九日
そみふゆらるゝ申す所え九月廿九日
よちを申す所え九月廿九日
いづよりいふ申す所え九月廿九日
くひに申す所え九月廿九日
ふ上東門院のちを申す所え九月廿九日

の清き世を終るにあらまじの
おころはくまのこの中よりいんせを
終る人となりぬらん万壽元年九月
十九日岡白のく湯院のけきありて
いよらんせを終る人となりて
まう十日ふもる井をぬきひてを
ぬてふくせ終るくて廿一日ふも
ぬくせ終る湯院のけきありて
いよらんせ終る人となりて中
つらのまはる源氏の中將と入る

くめの中よりいんせのくまひ
位中よりいんせのくまひ二年八月
のくまはる源氏の中將と入る
て五日くめを終る入道たるいん
みよらんせのくまひはる
くまひはる源氏の中將と入る
なるといんせのくまひはる
なるといんせのくまひはる
くまひはる源氏の中將と入る
くまひはる源氏の中將と入る
くまひはる源氏の中將と入る

いそりやなれやいふもてん

[illegible]

尸なうゝさうえゆりさこみをめえやと
 後吟泉庵の素阿と二条庵と尸しはる
 たりなまゑとをそとろせけまゐらね
 といふの奇うゝてふりて



去しにありはるすなり

[illegible]

ともありけり同年正月より上迄の
 おうのうれゆきありて朝親の
 せいせきを終るねのともありもゆ
 てもいあるもあまいともやうくも

[illegible][illegible]

しるしのそとにねてさるる
うらうらにねてさるる

と申すは、
こえりて

つづきのうぶさみちを
移のいねをうぶさみち

たなへさる年やうひの十日あきなり
とてり人のいさふさふさふさふさ
くは、
のいさふさふさふさふさふさふさ
めくたふのいさふさふさふさふさ
ゆきふさふさふさふさふさふさ

つづきのうぶさみちを
移のいねをうぶさみち
たなへさる年やうひの十日あきなり
とてり人のいさふさふさふさふさ
くは、
のいさふさふさふさふさふさふさ
めくたふのいさふさふさふさふさ
ゆきふさふさふさふさふさふさ

司天記取能稀色

分野望有露冷光

とう人のこころはしらえさうくたう
ゆけりや菩提樹院よの市門のいさ
れけりゆきと出羽のきりぎりす
いふくさうくふきん雲井あぐ
あさくさく一月のひらき
の菩提樹院に二条院の市もなまそ
いふのあまうふくはさうのいさ
さうにさうきくさうきくさうきく
あくくさうきくさうきくさうきく

うなうくさうきく

しんき

後朱雀院とすうさの二条院の才
のまひに母よあつたきんさうに
さうきくさうきくさうきく
のさうきくさうきくさうきく
さうきくさうきくさうきく
さうきくさうきくさうきく
さうきくさうきくさうきく

[illegible][illegible]

何よりより此の如くさう果ての事なれば
一歩もそれにとりかゝる事なかりき湯
明門院よりいひのめありさうせうし
所とある事なかりきせうし
一歩もそれにとりかゝる事なかりき
何よりより此の如くさう果ての事なれば
一歩もそれにとりかゝる事なかりき湯
明門院よりいひのめありさうせうし
所とある事なかりきせうし
一歩もそれにとりかゝる事なかりき

あやうさうきものねとたえて
けふひらはあやうさうなれ

とくろきんにぬいせしものなり。また東宮の
たよりをいふのやうにうたへり。この
まゝにいふやうにうたへり。ひて
内侍のうたとさうえは、冷泉院のいま
の東宮はたよりをいふやうにうたへり
てうせけり。このうたとは、うたへり。うたへり
このうたとは、このうたとは、うたへり。うたへり
なす。うたへり。うたへり。うたへり。うたへり
うたへり。うたへり。うたへり。うたへり。うたへり
殿のうたへり。うたへり。うたへり。うたへり。うたへり

たふしめひなれつるもならん
こふゆをけつてゆりもんこつとてけ
あつたさけあつたさけゆけつと
ゆけつとゆけつとゆけつと楊子妃のら
るるもあつていへるもあつていへる
らつとあつたあつたあつたあつたあ
あつたあつたあつたあつたあつたあ
あつたあつたあつたあつたあつたあ
あつたあつたあつたあつたあつたあ
あつたあつたあつたあつたあつたあ
あつたあつたあつたあつたあつたあ
あつたあつたあつたあつたあつたあ
あつたあつたあつたあつたあつたあ

けつとあつたあつたあつたあつたあ

路非山水誰堪跡
跡任乾坤豈得尋

なつとあつたあつたあつたあつたあ
乾坤とつたあつたあつたあつたあ
長久二年三月廿日たふしめつたあ
のあつたあつたあつたあつたあ
あつたあつたあつたあつたあつたあ
けつとあつたあつたあつたあつたあ
あつたあつたあつたあつたあつたあ

みくであらうと六月十六日より井さ
らせ給ふとありけり給ひ年々世々人
なりと申すぞぬりて給ひぬきなり
いふとてつてたりと申すはとれみそ
まうとすといふ人なりと申すはとれ
と申すはとれいふはとれと申すはとれ
のまねとれとれとれとれとれとれとれ
まうとてつてたりと申すはとれ
いふとてつてたりと申すはとれ
なりとてつてたりと申すはとれ

あら月

うらなひとてつてたりと申すはとれ
いふとてつてたりと申すはとれ
まうとてつてたりと申すはとれ
いふとてつてたりと申すはとれ
なりとてつてたりと申すはとれ
うらなひとてつてたりと申すはとれ
いふとてつてたりと申すはとれ
まうとてつてたりと申すはとれ
いふとてつてたりと申すはとれ
なりとてつてたりと申すはとれ

わらふふくらまなりしあはれに
かたのふゆきなり

うきうきなりけり
もたらふも世にあり

とてわらえけり
かたりけり
後一葉のみ
なす
うきなり

わらふふくらまなりしあはれに

わらふふくらまなりしあはれに
かたのふゆきなり
うきうきなり

わらふふくらまなりしあはれに
かたのふゆきなり

わらふふくらまなりしあはれに
かたのふゆきなり
うきうきなり
わらふふくらまなりしあはれに
かたのふゆきなり
うきうきなり

[illegible][illegible]

ゆゑにうたへてふくゝいふおぼし
きりゝせしむらんたゞけりゝ人海を
なすはすゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
のうゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
終きんゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
まゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
九月十之夜ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
のみゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
の朗詠ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
妙信の民部ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

からはういづゝ湯のつゞきあらういふ
 るなりと養となりけむ二条二条を
 けふとあらういふなりこのよき所
 ういふ七十七なり

まのえん

このつとて思ふに後冷泉院と一と後朱雀院の才一のまゝ中興内侍のつみ贈皇太子文姫子とまゝえさ入道ありとたゞの才六のいひとあり上皇院のありといふにふたゝゆすこの思ふに美

嘉二年とのとびのころの八月に自じま
 進所をもちり長暦元年七月二日辰
 卯つてとふの位ぬまりせ終八月十七日
 未亥より申で終く寛徳二年五月十六日
 らわふいりを終ぬり一才一をたりま
 志永義元年やういのふいつともちの
 ともいりともて七月十日申亥で終
 いさあふのふにりともとこあふて
 たり申一後一桑院のむかふなり終
 な月ともいりともて終くともいり

とせらるる正月十六日この月をたゞ
のちらるるなり十月は開白の御木
とこのちのたゞとせらるるなり
大ニあると申しこのちのたゞと
て年十一月は殿上のち合せらるる
さしこのちのたゞとせらるる
けりこのちのたゞとせらるる
一ふこのちのたゞとせらるる
このちのたゞとせらるる
このちのたゞとせらるる

川のちのたゞとせらるる
いふこのちのたゞとせらるる
のちのたゞとせらるる
まこのちのたゞとせらるる
けりこのちのたゞとせらるる
さしこのちのたゞとせらるる
さ月五日殿上のち合せらるる
まこのちのたゞとせらるる
さこのちのたゞとせらるる
さこのちのたゞとせらるる
さこのちのたゞとせらるる

ゆみゆめいふ連歌殿上人のつれ
はつしつとてんてんの御くらふわが
うゝゆりきつものなほまあやあう
しつふしつ九月九日このえんせらき
て菊むしきとあひしつとてんてん
あひとけいせあひしつとてんてん
し七年秋の月のうらけつとてん
かんあひしつとてんてんてん
えんてんてんてんてんてん
なり

いふのふゆめ

しつとてんてんてん九月十日
高陽院のつとてんてんてん
ゆめのとてんてんてんてん
お月やうてんてんてんてん
ゆめとてんてん

いふのふゆめ

しつとてんてんてん

しつとてんてんてん九月十日
りふとてんてんてんてん

見うへにいつてせむすひくハ後
をこなるせむすひくいつての足よの
うへにのあゝとなくせむすひ
なりくーるーの導師ハ勝能成主
のまゝ僧都なりとてえーれりてきふ
とてええりりーるまの同とつひて
瑞儀のしひりなりとの村とつひと
さひなきりりりむさくめちやきり
けりとも強やーひりなきいりりり
りりー丸きひりりりりりりりりり

殿上人のれりけのあてりりてた
つりりりりりりりりりりりりり
へいりりりりりりりりりりりり
ーりりりりりりりりりりりりり
やーりりりりりりりりりりりり
るーと年十月十五日の年の平等
院よみりりりりりりりりりりり
まふりりりりりりりりりりりり
りりりりりりりりりりりりりり
りりりりりりりりりりりりりり

人まじりしひらりしはるるてこれの
うらみはりきりしはるるてこれの
ふし人まじりしはるるてこれの
のりしはるるてこれの
おがしはるるてこれの
るんはるるてこれの
せはるるてこれの
なまじりしはるるてこれの
裂るるてこれの

忽看焉瑟之明影
暫駐鸾輿一日
歌

とやけりしはるるてこれの
よあしはるるてこれの
ふし人まじりしはるるてこれの
准之官の宣旨しはるるてこれの
しきこえりしはるるてこれの
きん内裏しはるるてこれの
さうんはるるてこれの
ゆき楽人しはるるてこれの

のりせらまゆふも中よ六条のむね
の中細玄とさうえびいしおそれまうさ
胡飲酒といひてゆきうていそふ
まふあひちの目大にそたふせしを
もちて并しけけいつらえうのれと
そさうえびいしおそいし一いふ
のなうやうきんうてまふ十二日二
社ようてうもてうせけさみうとふ
やうのうてうのう一月一日日
ふうの廢朝てみまをわう一せう

しとせらまゆふも中よ六条のむね
の中細玄とさうえびいしおそれまうさ
胡飲酒といひてゆきうていそふ
まふあひちの目大にそたふせしを
もちて并しけけいつらえうのれと
そさうえびいしおそいし一いふ
のなうやうきんうてまふ十二日二
社ようてうもてうせけさみうとふ
やうのうてうのう一月一日日
ふうの廢朝てみまをわう一せう

らせ給へんにはなほやうりうりさ
まゝいつてゐてもよいのかとたゞし
くもつてゐる。えんがうと能伝大
なつてゐる。そのやうなものの
ゑんがうはふたつ。一つは前
よりしてゐる。その傍らつて
うりうりしてゐる。えんがうと
能伝大のやうなもので、いふに
聞白のまゝいふ。そのやうな
らふ。そのやうな。いふに

ゑんがう。そのやうな。いふに
うりうりしてゐる。その傍ら
つてゐる。そのやうな。いふに
聞白のまゝいふ。そのやうな
らふ。そのやうな。いふに

てきりあつたるなれんを殿上
よけさうのゆゑにあらまうとた
ちめくらしく思ひなまなり
きりまはなりもなりものゆゑを
けりあつたつらうてまらん
えいりふよしいけなりあすもの
のみよくらうあそなくさうけ
まらち一なりていゝまうさう
あゝもの信胎に降る番とさうけ
はなうともいしとくもかせと

あがきれけりよじのれより
よめうたまつてはきけんさう
ふたなり一なりて日にいふさう
あゝふらうくもさうさうひて
あゝふけをけりなまきけゆちけ
まゝもなりとけりてけりけりけ
信胎つらうつて并もさうてい
まけりよけりもなりけりけり
のいふやうきんけり焼亡のい
まけり殿上人いふけりなれ

九州大學圖書印

